ROTARY CLUB OF HEKINAN WEEKLY

碧南ロータリークラブ週報

第２６４４回例会 平成２５年６月１２日(水)

●会長 黒田 昌司
●幹事 木村 徳雄
●会場監督(SAA) 新美 雅浩

■例会日　毎週水曜日　12:30　■例会場　碧南商工会議所ホール
■事務局　碧南商工会議所内　〒447-8501　愛知県碧南市源氏神明町 90
TEL<0566>41-1100　FAX<0566>48-1100
ホームページ：http://www.hekinan-rc.jp
E-mail:info@hekinan-rc.jp
■会報委員　菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴

2012-2013 年度　国際ロータリーのテーマ

●斉　唱

ロータリーソング「我等の生業」

●本日のメニュー

和風弁当　大正館

●本日のお客様

㈱フルハシ環境総合研究所　代表取締役所長　浅井　豊司様
〃　岩田　茉莉江様

会　長　挨　拶

黒田昌司会長

この辺りも梅雨入りになりまして、もう２週間以上経っております。どうしても雨が降りません。ダムの貯水率も減ってきております。そして田んぼ等にも水が必要な時期でございます。という事で、今回の台風３号に期待していたわけでございますが、台風がそれてしまいました。日本近海の水温が低いので急に元気がなくなったそうです。本日は、台風を含めた災害についてお話をしたいと思います。

日本は非常に安全な国でございます。日常から安全というのが染み付いております。

ところで、正常性バイアスという言葉がございます。例えば、デパートの火災報知器が鳴った時に、火災報知機の誤作動ではないかと思い、すぐ避難せず様子を見るという方が非常に多いと思います。２年前の東日本大震災の時にも、死んだ方の４０％が逃げなかったという記録がございます。日本人は安全というのが染み付いておりますので、危険を察知する感度が非常に低いです。正常性バイアスとは、安全だと思い込みたい心理という事でございます。

今から台風や、東海、東南海の地震がきた際に、まず避難するというのを考える必要があると思います。生活をしている中で、適度な不安を持つ事が大事ではないかと考えます。

幹　事　報　告

岡本明弘副幹事

- 例会変更等のお知らせは、幹事報告書の通りでございます。
- 入会候補者の件に関しまして、理事会で３名承認されました。本日お配りした中に、入会候補者のご案内がございますので、よろしくお願い致します。
- 本日、次年度の第３回理事会が２０１号室でございます。次年度の理事、役員の方はお集り頂きますよう、お願い致します。

委　員　会　報　告

＜出席奨励委員会＞

総会員数 65 名（内出席免除者 10 名の内出席者 7 名)出席者 51 名	
出席対象者　51／61 名	出　席　率　　83.61%
欠席者 14 名(病欠者１名)	前々回修正出席率　100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

＜ニコボックス委員会＞

平岩　辰之君　７年ぶりにハーフ３０台がでました。アウト４５・イン３８・グロス８３・ネット７０　ロイヤルC.C下山にて。　葵ＣＣでガンバリます。

奥田　雪雄君　渡辺さんには、再びお世話になりました。息子の嫁が大喜びでした。

角谷　信二君　６月９日（日）第６１回碧南高等学校同窓会総会が無事終了しました。池田弘孝さん、平松太さんご出席、誠にありがとうございました。

清澤　聡之君　去る、６月３日に西方寺於いて清澤満之生誕１５０周年記念講演会を、評論家宮崎哲弥氏を招いて盛大に開催することができました。お越し頂きましたみなさま方大変ありがとうございました。

竹中　　誠君　山中寛三先生に大切な本を貸して頂きました。大変参考になりました。ありがとうございました。

角谷　　修君　本日の卓話の講師「岩田　茉莉江」様を紹介いたします。

角谷　　修君
鈴木　泰博君　先日のゴルフ部会遠征では、黒田会長、木村幹事、遠征のご出席された皆様のおかげをもち、無事に帰って来れました。ありがとうございました。

藤関　孝典君　先週のゴルフ部会の遠征で繰り上げ優勝させて頂きました。

杉浦　栄次君　ゴルフ部会の遠征で、特別賞を頂きました。ご一緒して頂いた皆様には、大変お世話になりました。

杉浦　栄次君　消防団の県操法大会の選手が決まりました。
指揮者は、倉内春雄さん（倉内裕さんのご子息）、１番員は、篠原大輔さん（旭鉄工さんにお勤め）、２番員は、磯貝和弘さん（碧南市役所にお勤め）、

３番員は、牧　友之さん（古久根鉄工にお勤め）、４番員は、岡本秀一さん（商工会議所　職員）です。ご縁の深い方が多いのでご紹介しました。応援よろしくお願いいたします。

卓　　話

「企業における生物多様性保全活動」

㈱フルハシ環境総合研究所　岩田茉莉江様

岩田茉莉江様

まず、生物多様性って何？という事ですが、３つの多様性がございます。

一つ目は、生態系の多様性です。山や川、海など様々な自然があります。

二つ目は、種の多様性です。各環境の中で植物や動物、微生物など様々な生き物がいます。

三つ目は、遺伝子の多様性です。同じ種であっても、個体や個体群の間で遺伝子レベルで違いがあります。

私たちは生物多様性の恩恵をたくさん受けています。食料、衣料、薬品などの供給サービスがあります。呼吸ができるようにしてくれたり、水を浄化してくれたり調整してくれている、調整サービスがあります。文学や旅行などの精神面を提供してくれる、文化的サービスがあります。植物が二酸化炭素を取り入れ酸素を出してくれたりする、生きる基盤を提供してくれる基盤サービスがあります。

以下の４つの危機により、１年間で４万種が絶滅に追い込まれています。

１、開発など人間活動による危機（森林の破壊など）

２、自然に対する働きかけの縮小による危機（自然と共に暮らす意識の低下など）

３、人間により持ち込まれたものによる危機（ブラックバスなど）

４、地球環境の変化による危機（温暖化など）

企業が取り組むべき生物多様性に関する法規制や、新たな規制に向けた国際的な動きについてですが、立地や資源調達についてのルールが決められてきています。強いルールではないのですが、細かく定めた愛知目標というのがあります。生物多様性への配慮を怠ると、企業経営への甚大な影響を受ける可能性があります。一方で配慮する事により、ビジネスのチャンスとなる可能性があります。

生物多様性の活動は、大部分が CO2 や廃棄物、科学物質使用量削減等の従来の環境活動やグリーン調達、社会貢献活動等と重なります。そのため、従来の環境活動に生物多様性の観点を取り入れると、新たな生物多様性の取り組みに発展させる事が出来ます。

ブリジストングループでは、「事業活動と生物多様性との関わりの定量的な把握」を目指し、タイヤの製品ライフサイクルにおける生態系への影響活動を始められました。マップ化する事

により明確化され、それを基に各段階での活動を更に進めていっています。

どのように取り組んでいいかという事で、トヨタさんが「生物多様性ガイドライン」を作っており、それに沿った取り組みを展開しています。実際に各企業で出来る取り組みは限界があったりしますが、整理をしながらどのような取り組みができるかを分類し、出来る事からやっていく事が大事になります。

COP１０以降、各企業が取り組みやすいようにサポートもあります。その一つですが、名古屋商工会議所さんで、名商 eco クラブサイトがあります。事業活動と生物多様性というのがホームページ上であります。どうゆう事をしたらいいかなどのチェック表もありますので、参考にして頂きたいと思います。その中の事例集に、地産地消をされている碧南の小伴天さんの掲載もありますので、ご確認して頂けたらと思います。地元の食材をその地元で消費する事により、地域の食材の継承、伝統的調理を守る事にもなります。

今度は輸送という事で、三井造船株式会社さんが取り組んでいる事例があります。船が積み荷を下ろした際にバランスを取るために使用する水（バラスト水）で、その水中にいる生物を処理し、船舶を介して本来の生息地でない海域に移入、繁殖する被害を防止するという事を行っております。

土地利用という事で、中日本高速道路株式会社さんが取り組んでいる事例があります。地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境を創出するエコロード（自然環境に配慮した道）作りをしています。

社会貢献として、日本ガラストロニクス株式会社さんでは、地域の企業・団体・行政と連携した、琵琶湖の水環境を守るための様々な活動への参画をしています。狼川流域に拠点を有する企業を中心に、１１社が参画する「湖南企業いきもの応援団」を設立し、社員さんが毎月、どんな生き物がいるかをタモや網を使って調査しています。結果を行政に提出し、行政とも連携しています。

これらの事例を少しでも参考にして頂けたらいいと思います。

次回例会案内

平成２５年６月１９日（水）最終例会「役員挨拶」